

今月の活動

村落コミュニティへのサプライズ訪問(に同席)

ムチンジには村落給水運営維持管理の JICA プロジェクトが入っています。現在は、吉川さんと山田さん二名の専門家がマラウイにおり、私達ボランティアも水の知識から各村落の特徴やマラウイアンとの仕事の仕方まで、多岐に渡り教えて頂いています。このプロジェクトの一環で井戸についてコミュニティをサポートしています。今までは前日には村人へ訪問する事を伝えていたところを、今回は「サプライズ訪問」です。サプライズ訪問の目的は「普段から井戸を清潔に管理出来ているか？」です。この訪問に同行させていただきました。予定では 2 日掛けて 6 村落を見て回る予定でしたが、今回はサプライズ訪問なので、チェックポイントを確認し、村の WPC(井戸管理委員会)関係者から立ち話で聞き取り、という普段よ

りかなり短い時間でひと村落を調査出来たので、1 日で 6 村落の調査が終わりまりました。サプライズ訪問とはいうものの、私はそもそも村の井戸の状態を見ている回数が少ないので、今回と通常の訪問での違いを見分けることが出来ません。なので、私は主に村落毎の井戸の違いを確認しました。私が特に見比べていたのは、①フェンスの有無及び状態 ②エプロン(井戸の水を受ける場所)の清掃状況 ③土台周辺の清掃状況 ④浸透枺しんとうすの作りの違い及び清掃状況 以上 4 点です。

村を見て回ると、まずフェンスの有無が分かります。①については、そもそも井戸にフェンスを設置していない所が多いのですが、設置している井戸でも素材がグラスフェンスと言われる、すだれを横にしたような物からレンガでフェンスを作っている村まで様々です。ただ、グラスフェンスが倒れたまま放置されていたり、レンガがボロボロと崩れ始めている村もありました。井戸にフェンスが必要なのは、家畜などの動物が排泄をし、土壌、ひいては井戸の水源が汚染されるのを防ぐためです。



①その 1 グラスフェンス (一部損壊)

[ガミのつぶやき]

体調不良でやられていました。タイミング悪く WWD イベントの初日の午後から頭が痛くなり、イベント 2 日目は頭痛が酷く、残念ながらイベント不参加… 3 日目はどうにか出ましたが、その後首都に戻り再発… どうやら長距離の移動が弱いみたいです… 飛行機ならまだいいんだけど…

そして、今まで足首を蚊によく刺されていたのですが ①蚊に刺される ②かゆい ③掻く ④血が出てカサブタになる ⑤②に戻る のようなルーチンが完成していたのですが、体調が悪くなった際に免疫が弱くなったせいか、ばい菌にやられ一気に腫れ、化膿し、痛くなり歩行困難になりました。歩きはじめが特に痛く掴まり歩きをしないといけないという状況でした。

首都の病院で塗り薬と抗生剤をもらい、内服してからは 1・2 日で痛みは消えました。

この抗生剤がモノ凄く臭くて、最初服用した直後にお風呂でシャワーを浴びてる時に少しモドシました…。そして、尿も抗生剤臭くなってしまいました…

今回の化膿は、原因が「我慢の出来ない人間」でしたが、皆さんも体調管理と日々の悪い癖には気を付けましょね(;°Д°)



3月7日杉ちゃん生誕祭 in Mchinji

②は砂で汚れたエプロンを清掃しているかを見るのですが、エプロンは放っておくとスグ砂で汚れるので、定期的に井戸を清掃しているかを確認する目安になります。私達が来たのを見て、ホウキで掃除をし始める所や、掃除はしたのでしょうか、その掃除で使ったであろうホウキが排水路に放置され水を堰き止めている所もありました。



①その2レンガと②エプロン

③の土台周辺には、フェンスの内側の地面にレンガを敷いている所もあれば、ホウキで掃いた跡がある所や雑草が生えている所がありました。この土台周辺をキレイに保つことで①同様水源の汚染を防ぐという効果もあるのですが、コンクリートが周囲の地面から浮かないようにするのも目的の一つです。土台はコンクリートで周りは土なので、もし周囲の地面が下がって土台だけ浮いていると、土台が壊れやすくなり、補修が必要となるからです。また、井戸の給水ポンプ周辺は清潔にしても、浸透枡付近は雑草が生えている所が多く、人の導線となっている場所と、そうでない場所での意識の違いも見ることが出来ました。

④の浸透枡というのは井戸から水を汲んだ際や井戸の土台に併設されている洗濯場からの排水を貯める池です。この浸透枡の中に排水が貯まり、地面に浸透することで中の水は無くなるという仕組みなのですが、水が露出していると動物が水を飲みに来たり、虫の繁殖場になってしまうため、一工夫が必要です。基本は浸透枡の中には大きめの石



④浸透枡 井戸みtainの(左)と 手入れもされず水が溢れているもの(右)

を置き、木などで蓋をするのが良いそうです。また、中に入れてある石は定期的に洗い清潔に保つ必要もあります。この浸透枡は各村によって特色があり、村によっては浸透枡の内壁を井戸のようにレンガで円を作っている所や、浸透枡の上に木材とビニールを被せ更に土をのせ人間が歩けるようにしている所、浸透枡が既に満杯で回り一面水溜まりになっている所(コレはダメな例です)などさまざまな種類がありました。

この4点以外にも、学校に設置されている井戸では、井戸のハンドル部の稼働領域を制限する木柵を作り、子供達が井戸を乱暴に使わないようにしている所、井戸が道路の近くにあり、井戸には浸透枡を作らず、排水を道路の側溝に流れるように水路を作っている所がありました。浸透枡の上を歩けるようにしているのは過去に子供が穴に落ちたので危険だから、など、皆が井戸に関して色々考えているのが分かり、勉強になりました。



井戸の横で洗濯

そしてこれは残念なのですが、過去に井戸の使用料を徴収出来ていた村落で、WPCが積立てたお金を経理担当者が持ち逃げをした為、村人がWPCにお金を払わなくなり村人達も誰も信用出来なくなりお金を徴収出来ていない。という、悲しい現状の村があることも

山田さんから話を聞きました。一方、成功事例としては、山田さんが巡回している村でフェンスの必要性を説明し村人が貯蓄したお金でフェンスを設置したら、その周囲の村も真似をして、井戸にフェンスを建てた！という事例もあったそうです。

私が2年間に関われるWPCには限りがあります。(ムチンジに約2,000ですからね)しかし、今回の成功事例のように、私の関わったWPC以外にも波及させ大きな効果を生むことも可能です。その為にも私に関わるWPCではまず住民に一つ一つの理由を時間をかけて説明し、なぜ必要なのか？を一緒に考え、その必要性を理解した上で実践に移したいと思います。このように住民目線を忘れず、かつ彼らの将来に繋がる活動ができればと思います。

World Water Day in Mzuzu

世界水の日というのがあります。皆さんご存知でしょうか？ 国連が定め各国でこの日に水に係る啓蒙活動を企画するように推奨しています。

これは毎年 3 月 22 日にあります。(日本にいる時は知りませんでした…)

マラウイでは、Mzuzu(ムズズ)というマラウイ北部の都市で今年は開催されました。日程は金・土・日の 3 日間。

来年、このイベントに自分達水の防衛隊も手洗いダンスや水の歌などを創作して参加したいと思い、その下見を主目的として出席しました。

ちなみに、ここでもか！！というア

フリカの洗礼を受けまし

た。実際にイベントがあ

ったのは 3 日間なのです

が、イベントの 1 週間前

になっても予定表は下書

きの状態でこの時点でイ

ベントは木曜日からの 4

日間… ということで、移

動の為に水曜日にリロン

グウェに上がりました。し

かし、そこで急遽プランが

変更になり土・日だけの

2 日間になったのを聞き

ました！ しかし、プラン

は更に変更になり、翌日

の木曜日にはやっぱり金

曜日(明日)からの 3 日間に変更!! と

いうことで先述の日程になりました。イ

ベントってこんな直前に、しかも

延期ならまだしも日数が変わる

事があるのか！！ と、日本では

体験したことのないことがアフリ

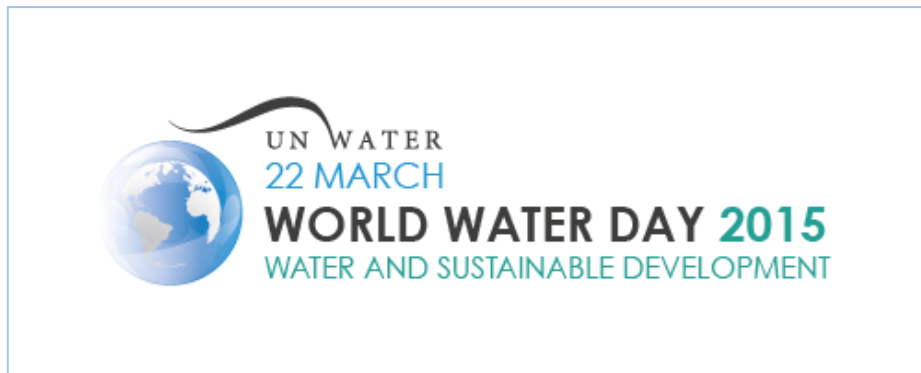
カでは度々起こります。こうい

うのに柔軟に対応出来る人間に

なれたら強いな とは思いましたが、

日本に帰ってからこの感覚は

必要なのだろうか？



まあ話が脱線しましたが、行事はすごくポリティカルな、形式ばった感じでした。想像していたのは子供や村人が聴衆として参加し、屋外のステージから演説だったり、劇をする。市民参加型の「学校の文化祭」のような行事をイメージしていました。しかし、

会場は高級ホテルのホールで行われ、プレゼン・質疑応答や水道公社対抗のコンテストや最終日の 22 日にはムタリカ大統領が来席される。という、かなりお堅い行事でした。(最終日は警備の理由から写真撮影禁止だったため、大統領の写真は撮れませんでした。)



WWD の新聞記事

実際のイベントは、参加者は水関連の行政機関・大学・NGO といった仕事や研究で水に関わっている方ばかりの上、

更に WWD の参加費が一人 50,000KW(≒12,500 円)とべらぼうに高額で、自分達も公務で参加してるわけではないので、自費での出費は厳しい額です。出席していた JICA 現地スタッフの方に手はずを整えてもらい軽食や昼食などサービス品に手を付けない約束で特別に無料で参加させてもらいました。この参加費用は、日本でも高いと思います。なので、マラウイにおける世界水の日イベントは市民参加型では無いということでした。(非常に残念) 来年の世界水の日は今回のマラウイ主催のイベントとは別で自分達で考えて他の企画をしようと思います。



WWD 会場内の JICA ブース と 初日のプレゼン

マラウイ事情

マラウイって知っていますか？

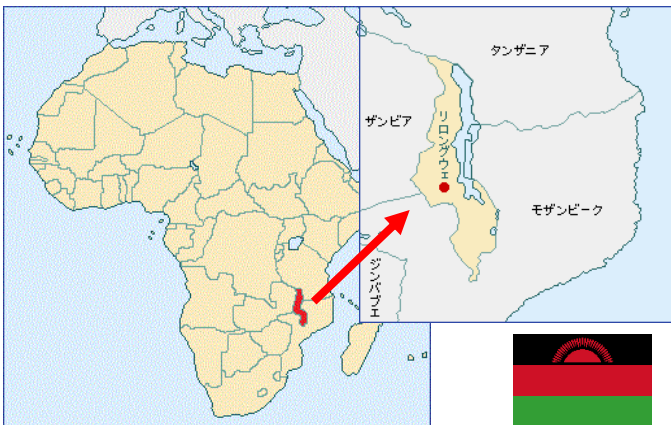
池上はマラウイで活動していると伝えましたが、マラウイの事を知っている人はいるのでしょうか？

自分は合格通知で任国がマラウイというのを見た時「どこ？」と思いすぐに調べたのを今でも覚えています。

そして、マラウイ隊員や JICA の職員の方でさえ、赴任が決まってから地図で場所を確認したという人が多く、日本における認知度は低いと思います。

そんなマラウイですが、池上が行ったことで、自分の周りから少しずつでも知名度が上がれば良いなと思っています。

マラウイはどこにあるのかというと、アフリカの東南に位置しており、北から時計回りに、タンザニア・モザンビーク・ザンビアと三国に囲まれている内陸国です。



マラウイには 29 の県があり、首都はリロングウェです。国民は 1600 万人おり、毎年 500,000 人増えています(凄い!!)。民族は 40 部族以上いますが、民族間の衝突、対立はありません。公用語はチェワ語と英語の二つです。北部ではトゥンブカ語という現地語があり、マラウイ全土で公用語以外の現地語が 10 以上存在しています。

GNI は 3,597 百万 USD で一人当たり 270USD となっています。一人当たり GNI は世界銀行が出している統計が出ている 213 か国中 212 位であり、最貧国のひとつとされています。

ちなみに、日本は 4,901,000 百万 USD で一人当たりは 38,400USD となっています。

マラウイは農業が主な産業であり、メイズとタバコが主な生産物です。メイズは主にマラウイの主食のシマとして国内で消費されています。

参考：世界銀行 (<http://data.worldbank.org/indicator/NY.GNP.PCAP.CD>)
外務省 (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/malawi/>)

■W-SAT Knowledge No.02■

今回は「水の防衛隊とは」を説明したいと思います。

水の防衛隊、英語表記で Water Security Action Team 略して W-SAT 日本語略は水防(ミズボウ)発音はカネボウのそれと一緒にです。

水の防衛隊とは 2008 年に開かれた第 4 回アフリカ開発会議にて当時の福田首相が表明した日本のアフリカ支援構想における国際公約の一つで、より多くの人々に安全な水を安定的に届けるため、水資源の確保、給水施設の整備・維持管理、水管理組合の活性化、衛生啓発といった分野を中心にボランティアや日本の技術者を水問題が深刻なアフリカ諸国などに派遣する日本の制度です。

「安全な水の確保」と「水に関係する衛生環境の改善」この二つを主な目的として掲げられています。

実際にどういった活動をするのか…なのですが、マラウイの池上の要請で説明するので、一例として見てください。

JICA 職員、調整員から開口一番に言われたのは「何をやってもいいですよ。」です。そう、前回の活動でも書きましたが、私 かなり自由なポジションにいます(笑) ただ、これでは説明にならないので一応付け加えると、マラウイの場合、井戸の管理は各井戸の設置されている村落が管理する事になっています。一つの井戸にひとつの井戸管理委員会(WPC: Water Point Committee)があり、その WPC を支援するのが主な活動になります。WPC の活動としては、井戸が壊れた際に修繕する費用を日頃より使用者から積み立てておき非常の際に支払う。井戸を清潔に保つ。井戸を家畜から守る。井戸を清潔に保つ。井戸を… っていう自治組織です。これ以外にもあるので要約すると、水防は井戸、

そして水回りの衛生施設(トイレ)及び衛生行動(手洗い)がメインだと思ってもらって結構です。

説明出来ているかな？

※あくまで、個人の見解です。専門的な知識があるわけではないので、各自で水質検査をするなど自分の健康は自分で確保してください。
また、質問・ご指摘等ありましたら、下記連絡先まで連絡願います。



平成 24 年度 4 次隊及び平成 25 年度 1 次隊

合同フェアウェルパーティー (送別会)

2 年間お疲れさまでした

今回は 251(平成 25 年度 1 次隊)の希望で 244 と 251 合同のフェアウェルパーティーとなりました。

幹事はその次の隊次が執り行う決まりになっているので 252 の仕切りの下ドミにて開催されました。

なお、延長組は既にフェアウェルをしてもらった立場なので、出席しないのが恒例だそうです。(皆で送れば良いと思うんですけどね)

先輩を送る為に振る舞われた数々の料理(寿司やパスタなど)はほとんど食べてないので料理は覚えてませんが美味しそうだった記憶はあります。次回は食べたいな♪ プログラムとしては、次長の乾杯から始まり、帰国隊員からの挨拶や、既に帰国している先輩からのムービーがあり、合間にはモノマネと歌もあり盛り上がりました。最後は所長の締めの言葉で終わりました。

と言っても、そのまま二次会がドミで続くのですが…

二次会では曲を流して歌うカラオケをしたり、ビンを回して口がこっちを向いたら一気飲み。最後の方は何もなくても一気飲み… そして、記憶が無くなり朝起きたらベッドでした… これがマラウイ隊員に引き継がれている「散らかる」という伝統行事らしいです。25 歳頃までの飲みを思い出します。((((; °Д°))))

今回(3 月に)帰国する先輩隊員と自分達 263 とのマラウイでの共有期間は 3 ヶ月もなく、初めてこの場で話す先輩もいました。ただ、中でもヤマタツ(244 大山)、シンちゃん(244 坂田)はドミ生活をしていた赴任初期に何度かドミで飲み交わしていました。

シンちゃんからは、ムチンジに赴任する前に任地で必要になる物品の買い物リストを作成する際に、どの商品を何点買って一つ当たりの概算額からどのお店で買うのがいいのか、そのお店の場所から、買う物の用途まで事細かく教えてもらったのを今でも感謝しています。いつも笑顔で、腰が低く 優しいシンちゃん同じ年ながら、尊敬します。



左 3 人が 244 ・ 右 3 人が 255

また、ヤマタツは直接会う機会より彼の話聞く方が多かったです。彼の任地のカロンガ(マラウイ最北端のタンザニアとの国境沿い)はマラウイの中でも僻地であり、マラウイ隊の中で唯一首都から移動で 2 日掛かる程遠い任地です。その為、はっきり言って魅力が無ければ誰も行きません。そんな僻地隊員であったヤマタツは自分の任地を知ってもらうため、自分の任地に人を呼ぶために、ヤマタツ主催のカロンガツアーというのをよくやっていたそうです。JICA ボランティアは、赴任後の 3 ヶ月は任地の人と交流を深めるのが大事！ということで、公務以外の任地外への移動が禁止されているため、残念ながら、そのツアーには参加出来ませんでした。ちなみに、

参加した人からは「楽しかった！」という話しか聞けません。(行きたかった) 任地に人が来ることで、自分自身更に任地の事を知り任地を好きになり、活動にも弾みをつけることが出来る。と思うので、自分も池上の任地ムチンジに人を呼べるような企画が出来たら良いと思います。



盛り上がるフェアウェル会場

平成 26 年度 3 次隊 コミュニティ開発 水の防衛隊(Water Security Action Team)

池上 享平 (いけがみ きょうへい) Mchinji Boma, Mchinji, Malawi

Tel : +265(0) 888-006-003 / +265(0) 997-611-886 mail : kyo.5up.net@gmail.com